

平成29年度第1回瑞穂市総合教育会議 会議録

平成29年11月20日（月）午後1時開会

○日 程

開会

1 あいさつ

- 2 議 題
- (1) 瑞穂市小中学校教職員の多忙化解消を目指して
  - (2) ICT教育推進事業の進捗状況
  - (3) 平成30年度教育委員会予算要望
  - (4) 平成30年度平和推進事業

3 その他

閉会

○出席者

市 長	棚 橋 敏 明	教 育 長	加 納 博 明
教 育 委 員	加 藤 悟	教 育 委 員	福 野 佐 代 子
教 育 委 員	森 下 伊 三 男	教 育 委 員	加 木 屋 加 緒 里

○欠席者

教育次長 山 本 康 義

○説明のため出席した者の職・氏名

教育総務課長	矢 野 隆 博	学校教育課長	村 山 邦 博
生涯学習課長	佐 藤 彰 道	幼児支援課長	林 美 穂
秘書広報課主査	森 川 正		

○職務のため出席した者の職・氏名

企画部長	廣 瀬 充 利	秘書広報課長	石 田 博 文
秘書広報課主任	村 田 杏 沙		

○傍聴者

0人

## 開会 午後1時

### 開会の宣告

○石田秘書広報課長 皆さんこんにちは。本日は大変お忙しい中、平成29年度第1回の瑞穂市総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日司会を務めさせていただきます秘書広報課の石田と申します。よろしくお願いたします。加木屋教育委員さんがちよっと遅れてみえるということですが、定刻となりましたので始めさせていただきます。本会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項の規定によりまして原則公開となっております。現時点では傍聴の方はみえませんが、希望者があった時点で、認めるということによろしいでしょうか。

### (全員同意)

○石田秘書広報課長 はい、ではそういう形で進めさせていただきます。もう1点です。瑞穂市総合教育会議運営要綱の第7条の規定に基づき、議事録には出席者の氏名等が公表されます。その点についてご了承いただきたいと思えます。それでは、まず初めに棚橋市長より挨拶を申し上げます。

---

### あいさつ

○棚橋市長 皆さんこんにちは。今日はありがとうございます。平成27年から開催しておりますこの総合教育会議は、市と教育委員会が、さまざまな問題について協議をし、両者が協力・調整して、教育およびそれを取り巻く課題を共有しながら、連携して教育行政を進めていくことを目的としています。

昨年総合教育会議では、瑞穂市におけるICT教育の現状と課題を、教育委員皆様にもご協議いただき、意見をお聞かせいただきました。今年度早速、「ICT教育推進事業」として予算化をし、学校教育現場で活用され始めたところです。

本日の議題について、まず1つ目としまして、「瑞穂市小中学校教職員多忙化解消を目指して」ということで、国の「働き方改革」に

よって、民間の長時間労働を見直すという流れの中で、学校等の教育現場にもやっと目が向けられてきたと感じる次第でございます。朝・夕方・土日の部活動の指導や、業務を家に持ち帰って仕事をする事、給食時間も食育教育の場で休憩時間がとれないこと、トイレもままならないこと、教師の健康管理が非常に心配でございます。この多忙化解消プランは、「働き方改革」と結びつく点もあると思いますが、教師の健康管理だけでなく、教師が本来の業務に取り組む時間が無くなってしまおうという問題を解消する効果もあると思います。瑞穂市の教育現場の現状や今後の多忙化解消対策について、ご説明願いたいと思っています。

2つ目としまして、ICT教育推進事業の進捗状況ということで、広報みずほ12月号で表紙および特集記事で掲載させて頂く予定ですので、皆さんご覧ください。県内の他市町でも「市立小中学校や特別支援学級にタブレット端末を配備した」という類のニュースを盛んに聞くようになりました。ICT教育は、児童生徒の主体的な学びを促進する役をかっており、授業に集中する児童生徒が増えたという嬉しい声も聞いており、またICT教育の導入で、“学び方”の無限の可能性を感じております。新規事業ということもあり、今年度は穂積中学校、穂積北中学校、巢南中学校、牛牧小学校に電子黒板とデジタル教科書が導入され、現場では、タブレット端末を使用した授業をどのように進めているのか。また、今後のICT機器導入のスケジュール、それに伴う予算を併せてご説明を願います。

3つ目としまして、平成30年度教育委員会予算要望についてです。来年度はどのような事業を検討しているか、それに伴う予算について、お伺いします。

そして4つ目としまして、平和推進事業です。市の主要事業の一環として、市民に広く平和の尊さ、戦争の悲惨さを伝え周知することを目的に、企画部秘書広報課が毎年行っている事業であります。平成22年に「瑞穂市非核・平和都市宣言」を制定し、「瑞穂市非核・平和都市宣言」の趣旨に沿って、「ピースメッセンジャー派遣事業」「非

核・平和コンサート」等の平和推進事業を平成24年より始めており、来年で7年目を迎えます。事業開始当初から、教育委員会のご理解・ご協力のもと、事業を進めた結果、多くの市民の皆さんに「8月はみずほ平和の祈りがある」と認識いただきつつあり、当初の狙いである「市民に広く平和の尊さ・戦争の悲惨さを訴え周知すること」が少しずつ成果として現れているのではないかと思います。

この平和推進事業の発展や、より良い内容作りを目指し、来年度の平和推進事業について、どのように予定しているかを、担当である秘書広報課から説明いただき、また、教育委員の皆さんからも、ぜひ意見やご指導をいただきたいと思ひます。

「瑞穂市教育大綱」にも掲げております、「より良い学びの環境の充実」、この理念の達成のために、今日の議題について、皆様の忌憚のないご意見、お願いいたします。

○石田秘書広報課長 ありがとうございます。次に加納教育長さんからご挨拶をお願いしたいと思います。

○加納教育長 改めましてこんにちは。今日はありがとうございます。市長さんのお忙しい日程の中で、お時間を調整いただきありがとうございます。先ほどの市長さんのごあいさつの中にもありましたが昨年度ICT教育の現状と課題ということでいろいろとご意見をいただき、本年それが具体化され、中学校及び牛牧小学校に電子黒板を導入することができました。その効果について、今後検証していかなければと思っております。貴重なご意見のおかげで施策が進んでいると思っております。

本日は教職員多忙化解消や、今後のICT教育等を踏まえてご意見をいただくわけですが、多忙化解消は教師側の働き方改革ということもあり、教師が働きやすくなり、瑞穂の子供たちのために良い指導をしていただければ、それは一番願っているところへ結局は行くわけでございます。そういった教員の働き方について目を向けていただいてご意見をいただけるとありがたいと思っております。

瑞穂市が県内でも本当にトップリーダーとして働き方改革を率先し

てできる自治体となって、より多くの先生方が「瑞穂で働きたい」と希望されるような取り組みができたならと常々考えております。実現できるような方法で私達も伺いたいと思いますので、忌憚のないご意見をいただければと思います。よろしく申し上げます。

○石田秘書広報課長 ありがとうございます。それでは瑞穂市総合教育会議運営要綱第4条の規定によりこれより棚橋市長が議長となって会議を進めていただきたいと思います。それでは市長さんよろしく願いいたします。

---

**議題 (1) 瑞穂市小中学校教職員の多忙化解消を目指して**

○棚橋市長 議長を務めさせていただきます。よろしく願いいたします。

最初の議題の瑞穂市小中学校教職員多忙化解消を目指してについて担当課長より説明をお願いします。

○村山学校教育課長 (資料に基づき瑞穂市小中学校教職員の多忙化解消等について説明)

○棚橋市長 ありがとうございます。只今「瑞穂市小学校中学校教職員多忙化解消を目指して」についてご説明いただきましたがこれにつきましてご意見やご質問がございましたらお願いいたします。

ご意見がないようでしたら、この次の「ICT教育推進事業の進捗状況」というところに進めさせていただきます。その後にとまめてご意見をいただけたらと思いますので一旦次の方に行きましようか。次はICT教育推進の事業の進捗状況についての説明をいただきます。

---

**議題 (2) ICT教育推進事業の進捗状況**

○村山学校教育課長 (資料に基づきICT教育推進事業の進捗状況等について説明)

○棚橋市長 どうもありがとうございます。ただいまICT教育推進事業の進捗状況についてご説明いただきましたが、これにつきましてご意見やご質問がございましたらお願いいたします。

○森下委員 質問ですけども、最初「帰っている時間」が出てきましたよね。

あれは、何時に学校に来て仕事をしているのか、時間の記録は取っているのですか。

○村山学校教育課長 あります。

○森下委員 ありますか。私もそのつもりなんですけれども、大体教職員は、授業の準備や何かをしていると、ついハマってしまって、自分で納得いくまでやってしまい、時間延長になってしまうものだと思うんです。だからそれを防ぐに一番大事なのは、意識改革だと思うんですね。たぶん教師の仕事ってエンドレスだと思うんです。先生方の中では、次の仕事、次の仕事というか次の授業の準備、それが終わったらまた次の授業の準備ということで、結構準備をするのが楽しい人が多いと思うんです。そうするとついつい知らない間に8時になっていたり9時になっていたということが多いと思うので、やはり意識改革が必要だと思います。それで意識改革だけだとなかなか進まないの、お互い注意しあって帰るようにする等、物理的にその辺を何か制限するような仕組みを。一番極端な例ですと、5時になったら全部電気を消してしまう、強制的に帰らせる。先生方にそれはちょっと酷だと思いますが、そういった何らかの仕組みを考えるのがいいかなとは思いますが、自分自身は実践できていないので、あまり余計なことは言えないのですが。

それからICT教育に絡んでですが、その働き方改革とも関連するのですが、情報化して楽にしようとすればするほど仕事は逆に増えて、余計な時間を食ってしまうというようなことはよく言われます。やはりそれでは本当の情報化とは言えないので、情報化した時にそれなりに時間の余裕ができる、ということが大事かと思います。とくに教材等を使うのは最初のうちは大変かと思います。けれど、電子黒板を使うというと、先ほどの資料の中にあっただように、社会科の授業で動きを見せることができると、もっとすごい教材になってくると思いますし、その場でインタラクティブにできるということで非常に良い教育の資源だと思います。それをうまく活用しながら先生方の時間も削減できるような仕組みがうまく具合に見つけられるといいかなと。以上

です。

○**棚橋市長** ありがとうございます。森下先生がおっしゃったように、ICT機器をうまく使わないとかえって仕事が増え、さらに多忙化してしまうかもしれませんが、基本的にはICT導入により、業務の負担を軽くすることは可能かな、と思います。加藤先生は、教職員の多忙化解消してICT教育を、以前教育現場で管理職として勤められた立場からどう思われますか。

○**加藤委員** 過去に現場で勤めていたときのことを思うと、多忙化が解消できなかった、逆に余計に忙しくしていた。そのような自分の行いがあって、この多忙化解消をどうするかとなると、大変課題が大きいと思いながら話を聞いていました。職員1人1人の意識改革というのは確かに大事ですが、地域の方や保護者等皆さんの願いにも応えていくということになると、地域の方、保護者の皆さんの意識も変えていかないと、なかなか難しいものがあると思います。現場で勤めていたときに、朝7時半に子供にあいさつした後、職員がどう働いているか、しっかりできているか、あるいは健康状態が良いか、校内を回りながら見ていました。職員の退勤後も、やはり管理職としては校舎内を回りながら心配事がないか見ていくわけですけども、とにかく管理職自身も先生方も頭を切り替えなくてはいけないと思います。ただ現実的に、「授業だけじゃなくテストを作り採点する」、「成績処理をする」、「保護者との連絡として通信を作る」、「地域の方が授業に入ってもらうための事前打ち合わせやプログラム作り」等、絶対時間が必要となります。いかにこれを省力化するか、正直言って答えが出ません。教員の意識改革だけでなく、保護者や地域の皆さんの、先生に対する見方を変えていかないと難しいこともあるんじゃないかなと思って聞いておりました。

○**棚橋市長** 私も管理職に「早く帰りなさい」と声をかけてあげたいですが、その部下の職員にとってみれば、「自分達が上司よりも先に帰るのは」という躊躇いもあるだろうし、本当に双方難しいと思いますね。  
今回、多忙化を解消するために、県の教育委員会、県の総務総括に

意見を出す中で、2点依頼をして参りました。1つ目として、土曜日・日曜日に、特にスポーツ少年団や運動部への指導を、地域の方々に先生としてお願いしたいと。もう1つ、やはりマンツーマンでしか子供さんたちの教育が難しいケースがあるため、加配教員の増員を県にお願いして参りました。ですが、他所も似たり寄ったりらしく、なかなか良い返事を頂戴できていないのが現実です。

○福野委員 大手企業の若い女性が自殺したことがあってあの影響かは分からないですけども、うちの法人でも労働局の抜き打ちの検査が入りました。付き合い残業とかダラダラ残業とか、ある程度時間をしっかり決めて職員も頑張れば早く帰れるという意識になって仕事も合理的にやれる、そういう意識を持つのはとても大事だということを、労働局から教えていただきました。

ICT教育についてですが、私ぐらいの年代になるとどうしても機械についていけないというか。だからそういう不安を持つ職員がもちろん本人の努力も必要ですけども、自信を持って楽しく授業ができるような配慮をしていかなければいけないということ。

そして労働局の方がもう1つおっしゃったのは、上司は「どの先生がどういうことに困っているか」、「なんでこんなに遅くなるんだろう」ということを言えず、ダラダラになってしまう。みんなで助けあげる人間関係がこれから求められているということを教わりました。

○加木屋委員 先生方の時間外勤務の中で、一番困っていらっしゃるのは個人が抱えるストレスだと思うんです。先ほど森下先生がおっしゃられたように、熱心に教材を準備するという先生方の意欲も本当に大事だと思います。先生方の中にはそれをストレスと感じずに前向きに取り組まれる方もいらっしゃると思いますので、時間だからと打ち切ってしまうのも、せっかくの意欲を打ち消すようでどうなのかなという気も少々しますが、やはり電子黒板をせっかく導入していただいてもその活用の差というのは先生によっては多少あるのかなと感じますので、授業に対して意欲的にやっていただけたらなと思います。

先ほどの加藤委員さんのおっしゃる通りに、教師の多忙化解消は本

当に先生方個人とか、教育の世界だけではなかなか難しい問題だと思います。保護者へも「金曜日は早く帰る日」というのを周知徹底されたことによって、かなり数字的にも変わられたというお話を聞くと、地域の方や特に保護者の方の理解というのはすごく大きいと思います。私が昔PTAでお世話になっていたとき、「ここは学校だから」、「ここは家庭だから」という保護者と先生の線引きというのはすごく感じました。「子供を取り巻いて一緒に協力してやっていく」というよりは、言葉は悪いですが、「学校で起きたことは学校の先生のせい」という意識が年々強くなってきているのかなという気もするんですが、その反面やはり先生方への評価というのが保護者の中ですごく厳しくなっているような感じがします。すごく驚いたのが暑中見舞いなどを子供たちに送ってくださっていることや、お便りを毎週出しているのを見ると、本当に先生方が教育に向けて頑張っているのを見て、すごく考慮していただいているんだなと思う反面、先生方への大きな負担になっていらっしゃるのではないかとということも気になりました。やはり保護者の理解を得ながら、地域を挙げて大きな枠で考えていく必要があると思います。

○**棚橋市長** ありがとうございます。本当に今日は非常に貴重な意見をお聞きしたかなと思っております。

それからちょっと私の方からお聞きしたいのがICT機器を取り入れた授業で、“この教科が役に立つ”“教科によってこのように活用した”等の実績があれば教えてください。

○**加納教育長** 教科の特性がありますが、社会科や数学は資料の提示が本当に効果的に出ています。顕微鏡の細かいところを拡大してみせる、あるいは実験の仕方を動画で見せるという点では、理科は非常に良いですし、色の関係でいえば図工美術には効果があると思います。

また“読む”ということであると、これもデータとして入っているので国語の音読ができますし、英語も毎回ALTが、外国人講師がいるわけではないのでその部分については音声で、ネイティブで話ができるということもありますので、英語も効果的に使うことはできます。

後はいかに授業のどこでどのように使うかというのを先生方が考えて交流していくことによって、より効果的に使うことができると思っています。今はまず慣れるということが大事であり、この3か月の中では十分慣れ始めてきているなどは感じてきていますので、今後効果的な活用という点で考えたいと思っています。

○棚橋市長 まさにこの次の予算要望に絡んできますね。矢野課長にお聞きしますが、先日矢野課長が「見に来てくださいよ、すごいですよ。『おおっ！』という感じですよ。」と言われましたね。先ほどの村山課長からも言われましたが、矢野課長が「とにかくすごい、早く全校に広めていかなければいけない」と思われた決定的な事例があったらお話しいただきたい。

○矢野教育総務課長 デジタル社会になって、私たちもスマホを使って色んなことを勉強したり、その時にすぐ情報を収集できるんです。いわゆる情報をすぐ収集できるとか、あとは先生が今まで書いていた紙を貼りつけていたものが押せばぱっと出てくるとか、そのスピード感とか、情報を先生たちはどの程度収集するのかわかりませんが瞬時に発信できるようなもので、私がもし、その時代にこういう教育を受けていればレベルが上がったのかなと思います。

○棚橋市長 今日出ました意見をまとめていただいて、何か1つのマニュアルを設ける等考えていただければと思います。また皆さんもおっしゃられたように地域の方々やPTAの方のご理解も大事だと思います。次の議題としまして、「平成30年度の教育委員会の予算要望」に移ろうと思いますが、よろしいですか。

○森下委員 一つだけいいですか。先ほどの労基の話がありましたけども、実は朝日大学にも入りまして、その時に言われたのが「タイムレコーダーをつける」ということで、できるだけ早く全員にそのタイムレコーダーで記録させてくださいということがありました。要するに出勤の状況を把握していないとだめですよということらしいので。

○棚橋市長 ありがとうございます。そのほか何かよろしいですか。次に進んでよろしいですか。

(全員同意)

---

### 議題 (3) 平成30年度教育委員会予算要望

- 棚橋市長 ではその次の平成30年度教育委員会予算要望についての説明を矢野課長にお願いします。
- 矢野教育総務課長 (資料に基づき学校施設の長寿命化の予算要望等について説明)
- 佐藤生涯学習課長 (資料に基づき生涯学習施設の維持管理・活用の予算要望等について説明)
- 棚橋市長 このような報告がございました。平成30年度教育委員会予算要望についてご質問ございましたらお願いいたします。今日一回伺ってございましたら、当初予算の方でこのことを考えておりますので、お知恵をお貸してください。どうしてもそれに該当する部分があればまた補正予算で考えなければいけないと思いますし。
- 加納教育長 その部分につきましてはまたご意見いただきたいと思いますので。
- 棚橋市長 ではこちらの方は皆様ひとまずは状況報告をさせていただいたということでご理解いただきまして、4つ目の議題「平成30年度の平和推進事業」について説明を求めます。
- 

### 議題 (4) 平成30年度平和推進事業

- 秘書広報課森川主査 (資料に基づき平成30年度平和推進事業について説明)
- 棚橋市長 ありがとうございます。今の説明にもございましたが、本当に大事な事業で確実に効果が出ています。

ピースメッセンジャーのご説明をさせていただきますと、中学校2年生の生徒を、ある年は長崎へ、ある年は広島へ派遣しました。しっかりした考え方を持っている生徒さんたちが、ピースメッセンジャーに応募してくれ、また一生懸命勉強してくれました。広島と長崎への派遣時期は終戦記念日の間近であり、真夏の一番暑い時期なんです。

みんな汗だくになりながら一生懸命ついてきてくれましたし学んでくれました。なおかつ説明なされる現地ガイドの方も、命の大切さと戦争・原爆がどれだけ悲惨だったかということ、同じ場所を何回もまわりながらも真剣に説明してくれました。ですがこの派遣の難点としては、ピースメッセンジャーとして行かれる方は12、3名ほどであって、あくまでも各中学校のごく一部の生徒が対象であり、そこから輪が広がっていきません。税金で行われる事業であるため、費用対効果が見えにくいのは、なかなか辛いところでもあります。

ただし“命”ということに対して考えていけば、私は必ず効果が出てきていると思います。例えば「私の主張2017」では、毎年誰かが必ず“命”をテーマにした作文を発表します。この平和推進事業も、「平和」という言葉を前面に押し出していますが、伝えたい根本は同じ“命の大切さ”であり、「私の主張2017」で彼らが抱いた“命”への思いとの整合性をとれるように、若者の意識を変える事業を、地道であってもとにかく多くの方々に広められないかなと思っている次第です。

そのためには「平和」を謳いながら、底辺は「命の大切さ」ということを訴えるため、平和推進事業をどれだけ人が少なくなっても続けていきたいんです。ぜひとも皆様方に力をお借りして、より効果的な案をお聞きしたいです。よろしくお願いします。

○加藤委員 考えが十分まとまり切れていないんですが、今までやってみえた取り組みも非常に関心の高い子供たちが、長崎や広島へ出かけて行って自分の目で過去の悲惨な歴史を見ていくというのは大事だと思うんです。ただそれを他の子供たちに広げようとするとなんか難しさがありますよね。その手段としてみんな連れていくなんて言うこともできませんし、そうなるといろんな方法で、学校で取り組むというような形になるかもしれませんし、これがいいということを書ききれないんですが、対象を誰にするかということと、子どもを対象とするなら、どこまで理解を図っていくかということ、市民全体がどうするかということとちょっと分けて考えていただく必要があるのかなと思います。

○棚橋市長　また気づかれたことでも結構ですので、市に意見を言っていたらけるとありがたいと思います。

それではただ今の件につきましては、いつでも結構ですので皆様方からご意見をいただければありがたいです。

---

#### 閉会の宣告

○棚橋市長　それでは最後になりますが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4、第7項及び瑞穂市総合教育会議運営要綱第7条の規定により市長が議事録を作成することになっておりますが、内容については私に一任していただくということによろしいでしょうか。

(全員同意)

○棚橋市長　ありがとうございました。会議の円滑な運営にご協力いただきましてありがとうございます。

○石田秘書広報課長　皆様方どうもありがとうございました。これをもちまして第1回の総合教育会議を終わりたいと思います。ありがとうございました。

閉会　午後2時20分